

在宅療養支援について

平 間 知 一

〔質問〕高齢者やターミナル

たい。

ケア等、住みなれた地域や家庭で生涯を送るニーズはますます高まっており、在宅療養への円滑な対応が重要となっている。

高齢者の在宅療養を支える

ためには、訪問診療や看護等医療面の支援が必要であるが、現在の支援体制について伺い

また、在宅療養者の円滑な

夜間・深夜緊急時体制は、複数診療所の医師の支援により、24時間体制での連絡や相談の機能を果たせる体制が必要と考えるがいかがか。

廃食油の再生、有効活用について

佐久間 儀 郎

〔質問〕使用済み食用油を、

資源有効活用、リサイクルの

観点から回収し、※バイオ

ディーゼル燃料（BDF）に

精製し、軽油代替に市民バス

や公用車の燃料に再利用して

いる事例が増えている。

排ガス中の硫黄酸化物、黒

煙も減らせ、廃油垂れ流しによる河川の水質汚濁防止にも

なり、地球環境への複合的メリットが見込める。

環境衛生行政で先導的な本

市にふさわしい施策であるか

ら導入を検討すべきものと考え

るが、市長の見解を伺う。

○その他の質問

企業誘致促進対策について

〔答弁〕〔市長〕在宅療養支

援については、市内に2カ所の同診療所があり、刈田病院と白石市医師会の訪問看護ステーションと連携しながら、支援を行っている。

一方、在宅ホスピタル、ホスピス患者受け入れについては、平成11年から、医師、そして調剤薬局、看護師等が発起人となり設立された「仙南地区在宅ホスピスケア連絡会」が、がんセンターを地域中核病院として、在宅療養支援診療所の指定を受けた地域の開

業医を拠点に、訪問看護ステーション、薬局、行政等と連携し支援を行っている。

また、白石市医師会、訪問看護ステーションにおいては、契約された方々を対象に居宅介護支援事業のケアプラン作成、さらに、居宅サービス事業として、かかりつけ医の指示のもとに、一人一人の状態に合わせた訪問看護が、24時間体制で年約9百件ほど提供されている。

在宅医療の体制整備については、本年4月から施行予定

〔答弁〕〔市長〕バイオディーゼル化は、地球温暖化防止、また循環型社会形成の促進の効果があるなどから、BDFの製造、利用の取り組みが始まっていることは承知してい

る。

しかし、現状では、寒冷期には固まりやすいなどの欠点を克服するなどの安定した品質の確保及び、BDFと軽油の混合利用は、軽油取引税の課税等の問題などがある。

本市の学校給食センターの廃食油は、年間約9百リッ

トルの排出量があり、業者が回収して家畜飼料の原料として活用されている。

BDFの先進市では、一般家庭からの回収が頭打ちになっているという声も聞いており、県南では名取市、角田市が実施しているが、1カ月あたりの回収量が70リットルから2百80リットル程度で、

現段階ではBDF事業の取り組みを行っているというPRの部分が大きいようである。

しかしながら、地球環境問題、ごみ減量等を考えた場合、

の宮城県地域医療計画の中でも触れられており、在宅療養支援診療所を初めとする在宅医療に取り組む医療機関の充実や関係機関の情報の共有、連携体制の構築が最も重要であるとされている。

本市においても、これらの体制整備を進めるためには、白石市医師会との協力・連携が必要であり、医師会に協力をお願いしてまいりたい。

喫緊の課題であると思うので、先進地の実施推移を注視して、見きわめてまいりたいと考えている。

※バイオディーゼル燃料（BDF）生物由来油から作られるディーゼルエンジン用燃料の総称

